

### 環境テクシス

# 中間処理許可を追加取得

## 容器包装食品の受入可能に

食品廃棄物の肥飼料  
化事業を手掛ける環境  
テクシス(愛知県豊川  
市、高橋慶社長、05  
33・87・5512)  
は、1月21日付けで産



飼料化施設

業廃棄物のろ過、乾燥  
選別、破碎の中間処理  
許可を追加取得し、新  
たに破碎機や容器分別  
機などを導入した。容  
器包装入り食品廃棄物  
の受け入れにより、回  
収量の拡大を目指す。  
同社は07年1月から、  
食品リサイクル事業を  
開始した。現在は、主  
に静岡・愛知県内の食  
品加工工場から出る製  
造副産物や有機性汚泥、  
販売期限切れ食品など  
を、1カ月当たり約50  
ト受け入れている。  
回収物の8割を占め  
る食品廃棄物は、容器  
包装の分別、異物除去、  
破碎などの工程を経た  
後、養豚用の液体飼料  
(リキッドフィーディ  
ング)原料・混合飼料  
として飼料卸業者や畜  
産農家に供給する。有

機性汚泥や飼料に適さ  
ない食品廃棄物につい  
ては、発酵処理し、た  
い肥(ゆうきのススメ)  
を製造、販売している。  
一昨年にはホテルア  
ークリッシュ豊橋(愛知  
県豊橋市)、養豚業者の  
トヨタファーム(愛知  
県豊田市)と連携して、  
リサイクルループを完  
成させた。この取り組  
みでは、ホテルから排  
出される食品廃棄物の  
うちパンを分別、ホテル  
内に設置した乾燥機で  
乾燥処理し、保存性を高  
める工夫を行っている。  
今後は、乾燥処理や  
薬品処理など、排出現  
場で保存処理できる手

法の研究をさらに進め  
ていく方針だ。高橋社  
長は、「保存性を高め  
ることで、量の少ない  
排出元でも飼料化を中  
心とした食品リサイク  
ルに参加できるシステ  
ムを作りたい。それと  
ともに、高品位なもの  
は有価物としての買い  
取りを積極的に展開し  
ていく」と話し、回収  
量の拡大に向けた意欲  
を見せている。